

2024年11月6日
日本ハム株式会社

2025年3月期第2四半期決算 Web 会議 議事録 主な Q&A

日時：2024年11月1日 金曜日 17:30～18:30

Q1. 今期の事業利益見通しについて

A1. 通期事業利益は計画通り480億円を見込む。販売好調なシャウエッセンと豪州牛肉事業の更なる伸長や、国産鶏肉の回復に上振れ余地を残す。

Q2. 加工事業の今期見通しについて

A2. 通期事業利益は105億円を見込む。上期は価格改定や商品ミックス改善、最適生産体制の進行により収益性が向上した。下期は商品ミックス改善に加えて、新商品の投入や販促活動を強化し利益を確保するとともに、デリ商品の数量回復を目指す。

Q3. 食肉事業の今期見通しについて

A3. 通期事業利益は330億円に見直す。上期は国産鶏肉の前年を下回る相場安とコスト高止まりの影響を受けた。下期は輸入食肉において入船遅延等で需給バランスが一時的に崩れたことや為替変動から在庫ポジションが悪化したため在庫の入れ替えを進める。3Qに販売損が発生するが4Qから改善する。

Q4. 海外事業の今期見通しについて

A4. 通期事業利益は70億円を見込む。2Qは米州の鶏肉加工品の原料価格上昇や、製造における歩留まり悪化があったが、概ね計画通りに推移した。下期は豪州牛肉事業の計画通りの進捗を見込んでおり、全体で利益を確保できる見込み。

Q5. 来期の事業利益の見通しについて

A5. 来期事業利益540億円に対して計画通りの達成を見込む。加工事業はシャウエッセンを中心とした主力商品の伸長と構造改革効果を見込む。食肉事業は国産鶏肉と輸入食肉の反転に加え、チャネル別戦略の深化とブランド食肉や加工品の販売拡大で利益を確保する。海外事業は引き続き、豪州での牛肉事業と米州での加工品の販売を拡大する。

以上